

ヨハネ 10:27-30

10:27 (そのとき、イエスはいわれた) わたしの羊はわたしの声を聞き分ける。わたしは彼らを知っており、彼らはわたしに従う。

10:28 わたしは彼らに永遠の命を与える。彼らは決して滅びず、だれも彼らをわたしの手から奪うことはできない。

10:29 わたしの父がわたしにくださったものは、すべてのものより偉大であり、だれも父の手から奪うことはできない。

10:30 わたしと父とは一つである。」

復活節第四 ヨハネ 10:27-30

1. 思い込みにからめとられる

きょうの福音(ヨハネ)はイエスの答えの部分の抜粋となっています。問いの部分は以下の通りです。

すると、ユダヤ人たちがイエスを取り囲んで言った。「いつまで、わたしたちに気をもませるのか。もしメシアなら、はっきりそう言いなさい。」イエスは答えられた。「わたしは言ったが、あなたたちは信じない。わたしが父の名によって行ふ業が、わたしについて証しをしている。しかし、あなたたちは信じない。わたしの羊ではないからである。」ヨハ

ネ 10:24-26

イエスの問答は「はぐらかし」です。質問に対してまともに答えることはあまりしません。それはおそらく「からめ

とり」に関係しています。

ユダヤ人たちがあなたはメシアか問うとき、それはユダヤ人にとってのメシアであるのかという問いであり、その答え以外は聞く気はありません。

イエスにしてみればユダヤ人の思い込みにからめとられることは問題です。「メシアならはっきり答えろ」に対して「はい、いいえ」で答えたらだめなんです。議論を重ねて煮詰まってきたからといって、ここでイエス・ノーで答えてはユダヤ人たちからめとられるのです。

しかし、一方では問い詰めている側にも大きな問題があります。それは、問いかけるものが「問い」そのものに「からめとら」れてしまうことです。

ここではメシアに対する思い込みが強すぎて、イエスのことばの意味がわからなくなっている状態になっています。そこで、イエスの答えは羊の話になります。

2. わたしの羊

イエスは自分を信じる人のことをわたしの羊と呼んでいます。わたしの羊たちには永遠の命を与えると宣言します。そして 29 節に続きます。

わたしの父がわたしにくださったものは、すべてのものより偉大であり、だれも父の手から奪うことはできない。

「くださったもの」とはいったい何ををさしているのでしょうか。文章の流れからすれば、イエスを信じる人をさ

しているとみていいでしょう。

30 節の「わたしと父とはひとつ」という言葉は、父と子（わたし）の間に「羊」があって成り立つ関係です。

「羊」は父から与えられた「すべてのものより偉大」で、「だれも奪えない」とあります。

羊は父からも子からも奪えないもの、つまり神にもイエスにも必要なものということです。

羊は「わたしの手」と「神の手」がともに守ろうとするほど価値のある存在です。

わたしたちにとって、イエスを信じること、イエスの声を聞き分ける羊となることの意味がここに明らかになっています。イエスと父の関係、その関係を成立させるための「羊」の役割がある。

羊に喩えられているわたしたちが、その役割、役目を果たすことで永遠の命を得る、神との交わりにはいることになると約束されています。